第２回 三川中学校学校運営協議会　　議事録

月日：令和７年１０月２２日（水）
時間：１４：００～１６：２０
場所：三川中学校　図書室

□学校運営状況の報告　１４：１０～１４：３０
□学校運営等への質疑・応答　２０分
□授業参観　　１４：５０～１５：２０
□熟議テーマ　　１５：３０～１６：２０

◇学校運営状況の報告　　新舘　啓一　校長

○2 学期が始まり２か月近く過ぎようとしている。運動会や田川新人総体、田川地区の合同音楽会（３年生参加）などの行事を終え、今は合唱祭に向けて取り組んでいる。2 学期の始業式では、「自律・共生・貢献」に関わり、運動や合唱が苦手とする人も、学校行事に向けてどう折り合いをつけて協力していけるか、また、行事を通し友だちのよいところを吸収して取り組んでいけたらと話した。さらに、３年生は受験を意識しだしてきているので、学校全体で学習や読書に真剣に取り組むようにと話した。

○「魅力ある学校づくり」に関わる１期のアンケート結果をみると、「学校が楽しい」が全体で９６．４％、「みんなで何かをするのは楽しい」９９．５％、「授業に主体的に取り組んでいる」９３．６％、「授業がよくわかる」９１．７％と全体的に良好な結果を示している。自尊感情に関わる項目では、「自分によいところがある」９０．１％、「友だちは、あなたのよいところを認めてくれる」９４．３％とほぼ安心できる数値がでている。

○全国学力調査の結果は、学力の正答率では、県や全国と比べほぼ同じかやや上回る結果となっている。理科に関しては、IRT スコアでの表示となっていて全国や県を上回る。

※「IRT スコア」＝従来のテスト理論が抱えていた合計点の問題点を解決するために開発されました。具体的には、正答率だけでなく、問題の難易度や識別力（問題が受験者の能力差をどの程度識別できるか）といった項目特性と、受験者一人ひとりの能力を分離して考え、これらを数値化します。

○学習状況での質問では、県や全国平均を５ポイント以上上回っている項目が多かった。特に国語、数学、理科の授業への取り組み姿勢や教師との関係性に関する項目はポイントとして高い。平日や休日の学習時間に関わる項目をみると、平日２時間以上勉強していると答えている生徒が全国より９ポイント、休日３時間以上が６ポイントと三川中生はよく勉強している。憶測ではあるが、平日に部活動の時間を見直し４時４５分下校にしたことなどが、学習時間の確保に影響しているのかもしれない。県や全国平均に比べ低かったのが、１．２年生の時に PC やタブレット等の ICT 機器を授業で使用したかの質問項目であった。今後の授業改善に役立てていきたい。

〇いじめの認知件数に関わる調査（１学期末）では、件数的には少なくなってはいるが、どの学年でも同じ程度の件数を認知している。よりアンテナを高くしながら、また、生徒への声掛けを大事にして解消へ取り組んでいる。

〇不登校の人数では特定の学年に多いが、別室登校（ミッテ）などで支援を続け、支援が途切れないようにしている。

〇働き方改革に関した教員の時間外在校等時間に関わっては、部活動改革や退校時間を早めている取り組みの成果で昨年度より改善が見られている。

〇これまで県の表彰は受けていたが、今年、全国での全日本学校歯科保健優良校表彰を頂いた。

◇学校運営状況に対する質疑　　各委員の方より

・生徒の声アンケートを見ると、１．２年生に比べ３年生の数値が低くなっているが毎年のことなのか。

→3 年生になると授業も難しくなる傾向にはあると思うが、学年によるカラーもあり、今年の３年生が２年生の頃の数値を見れば、特に大きく衰退したということではない。

・栄光の足跡を見て思うのだが、個人競技での入賞等が多く、団体競技は部活動として成り立っているのか。クラブチームで参加はできないのか。

→合同チームで参加するようになっている。クラブチームで中体連に登録しているチームは参加可能である。

・部活動やクラブチームとくくり方が以前とだいぶ変わってきている。多様性による過渡期にあるので難しい。

・体育文化後援会組織のあり方についてはどうか。

→対象は三川中として中体連の大会へ出場する生徒への支援と考えている。部活動加入者が５０％をきっているので、支援も修学旅行等、全校生徒に関わるようなものになりつつある。

→部活動は任意加入でもあり、何もしていない生徒も多く存在している。クラブ加入をしている生徒の把握などは学校では行っていない。あくまでプライベートの活動としている。栄光の足跡には希望があれば載せている。

・地域との関りが希薄になりつつある若者が多くなっている。

・すべてをおぜん立てする社会になりつつある。些細な事でも周囲と関わる取り組みが大事。

・学習時間が２時間３時間ということはよいことではあるが一人で居る時間が多くなった。それだけ地域との触れ合う機会は少なくなってきている。特に今の３年生はコロナ禍の最後の年の子たちで、一番周囲と関わりを持ち楽しむべき時間を逸した子たちでもある。

・少子化で子どもの数が減ってきていることは、一緒に遊ぶ子どもが少なくなってきている。何か地域で企画しても子どもの活動が多様化していることで日程が組めないことも多い。

→土日に学校行事を組んでも参加できない生徒が出てくることもあり平日に組んでいる。

・公立高校の入試制度が変わったことでどの様な影響が出てくるかも不安である。手続きについて心配もある。

◇授業参観の感想と熟議テーマについて

・合唱練習を参観し、生徒が主体的に活動に取り組んでいることに驚きを感じた。全学年が２学級となり取り組み自体はやりやすくなった。

・児童数の減少による小学校の統合についての話題は前から出てきていた。しかし、「どの学校を無くすのか」といった意見や、地区の思いもあり表面に出ることはなかった。この児童数の減少を見れば、そうは言っていられない状況がある。だれも口に出したがらないだけなのではないか。

・子どもの立場に立ってみれば、６年間の中で、担任は変わるが同じ児童と共に生活することで、人関係に躓いてしまい苦になったり不登校になったりすることはデメリットになる。また、親同士の関係にも影響する。

・少人数で不登校となることはあまり聞こえてこない。地域や大人との関わる機会がどうしても増えてくるからだろうか、貴重な存在になっていることからくるものだろうか。

・部活動から離れ、クラブの活動で学校の友だちとは違う友だちと触れ合うことはメリットになる。

・住宅団地ができたり、商業施設ができたりすると若干の増加は期待できるが長続きはしない。子育て施策が極めて充実しているとか、通学への交通の便がよいとかが長続きする。

・交通の便については子どもだけではなく高齢者についても言えることである。簡単に免許の返納はできない地域性となっている。

・部活動の人数が減り、冬季のスクールバス運行の経費負担が減少し、長く運行する予定で進めている。

・今後、外国籍の子どもが町内に住み着く可能性もでてくる時代となり、様々難しい状況が生まれることが予想される。一つひとつ対応することは困難である。（給食等）三川の自校給食も児童数の減少でいつまで続けることができるのか心配である。

・感情論より、将来的な実態を考えて学校の適正規模について語ることが今後大切である。